

# 京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

## 1. 研究課題

東アジア伝統医療文化の多角的考察

Study on Various Aspects of Traditional Medical Culture in East Asia

## 2. 研究代表者氏名

大形 徹

OHGATA Toru

## 3. 研究期間

2014年4月 - 2017年3月

## 4. 研究目的

東アジアの伝統医療は、鍼術、灸法、按摩マッサージ、骨接ぎの諸技法、方剤調合を中心とする薬物療法を中心として大いに発展し、道教、仏教、陰陽道における宗教的な呪法、内丹、瞑想等の身体技法、あるいは世俗に流行した長寿達成の養生術、丹薬、年中行事に組み込まれていく民間信仰等々と相互連環することで特有の文化複合体を構築してきた。そこで、伝統医療文化を総合的に研究するためのフレームワークとして、医学史家だけではなく、現代医薬学の専門家や臨床医、鍼灸師と思想、宗教、科学の諸分野で文献研究を推進する研究者を一堂に集めて、文理横断的な視点から多角的、複眼的な考察を繰り広げ、医療文化の総体に構造的把握を試み、理論的特質や可能性を探る。そして、日中韓三国の伝統医学や医学史研究の現状を踏まえて、統合医療、チーム医療といった今日的な動向のなかで鍼灸医療や漢方薬研究が歩むべき道を討議し、伝統医学の立場から医療文化の未来像を提言する。

## 6. 研究成果の概要

東アジアの伝統医療文化の構造的把握を試みるために、様々な角度から検討を加え、社会的、思想的背景を考察することによって、全体像を鮮明にし、学問的特質や文化作用を探った。主要な考究対象を大別すると、以下の3事項になる。(1)医学、本草学と思想、宗教文化の相互関連、医薬学研究の術数学的考察、(2)古医書の伝存状況と研究方法論及び現代的意義、(3)東アジア世界の伝統医薬の近現代的展開、統合医療・代替医療の諸問題。それらの考察を通して、東アジア伝統医学が包含的で多様性のある文化複合体を形成していたことを明らかにし、多元的で作用力の強い学問的枠組みは、伝染病や難病治療に特化した現代医療に欠如するものであることを提言した。また、理論や臨床における具体的様相を検討し、生活習慣病、婦人病、小児病の分野において、道家者流の長生術、養生思想を基盤として早

期から高い水準の医療を実践していたことを明確にした。そして、近年に注目を集めているアンチエイジングや不妊治療に応用されつつある現状を窺い、伝統医薬の将来像や可能性を検討した。

#### 8. 共同研究会に関連した公表実績

<公開講演会>

2016年6月4日 伝統医療文化国際ワークショップ 2016-6(学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院との共催、兵庫医科大学総合研修棟・中医薬孔子学院多目的ホール)

<展示会>

2016年11月1-3日 京都医学史展 2016(第24回医療文化サロン展)(京都半井家等と共催、護王神社護王会館)

<雑誌記事>

2016年11月2日 京都新聞朝刊:京都医学史展 2016 の紹介記事

#### 15. 研究成果公表計画および今後の展開等

参加メンバーによる研究成果論文集を計画している。